

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	bonキッズ北堀江		
○保護者評価実施期間	2025年 6月 20日		2025年 7月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 7月 25日		2025年 7月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 8月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が楽しんで通ってきてくれる場所であること。	利用児童ひとりひとりを評価することから始め、興味関心・スキル・集中力に合わせたプログラムを提供している。	利用児童の評価を保護者と共有し、家で自立スキルを高め、将来の目標を設定していく。また園と連携し、楽しみながら行事等に参加できるように場面を汎化していくこと。
2	保護者も事業所の支援に満足してくださっていること。	利用児童の評価を保護者と共有している。また家での困りごとや目標に対して療育でできることをすぐに取り入れて、実際に日々どう支援していけばいいのかを見ていただいている。	療育場面の実践はすぐに保護者と相談しながら実行で知るのが、家庭の場での実践モデルを見せてあげることなどができない。家庭訪問を行うことができると更にご家族の理解につながる。
3	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から具体的な支援内容が設定されていること。	ガイドラインができる前から子どもの課題を5領域に分け、それぞれ達成可能な具体的な目標を設定して取り組んできた。この度ガイドラインができたことでそれに沿って領域の区分を分け、すべての領域における支援目標を立てて取り組んだ。	「本人支援」「家族支援」には力を入れて取り組んだが「連携」や「移行支援」については積極的にアプローチする余裕がなかった。今後事業をけいぞくするのであればこの領域についてさらに充実を図っていくべきである。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	大阪市の専門療育という事業所の性質上、外部の子どもと利用児童の交流を図りにくい構造である。	発想を転換して専門療育によりつながりやすいように利用児童以外の子どもの相談に応じるサービスがあれば、より地域に開かれた事業所となると思われる。
2	事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化されていない。	事業所の構造上エレベーターのない2階部分に事業所がある。また設備が古い為廊下の暗さや下水のにおいなどが気になる。ビルの管理会社に要望は出しているが、なかなか改善されない。	ビルの管理会社に許可をもらい、廊下の照明をLEDにしたり、壁紙を張り替えたりして明るい雰囲気作り替える。もしくは移転を検討する。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がなかった。	大阪市の専門療育という事業所の性質上、地域の子どものと利用児童の交流を図りにくい構造である。	地域の子どものとの交流は、利用児童が行うのは左記の通り困難があります。しかし外部の児童の保護者が利用できる発達相談の日などを企画していく。